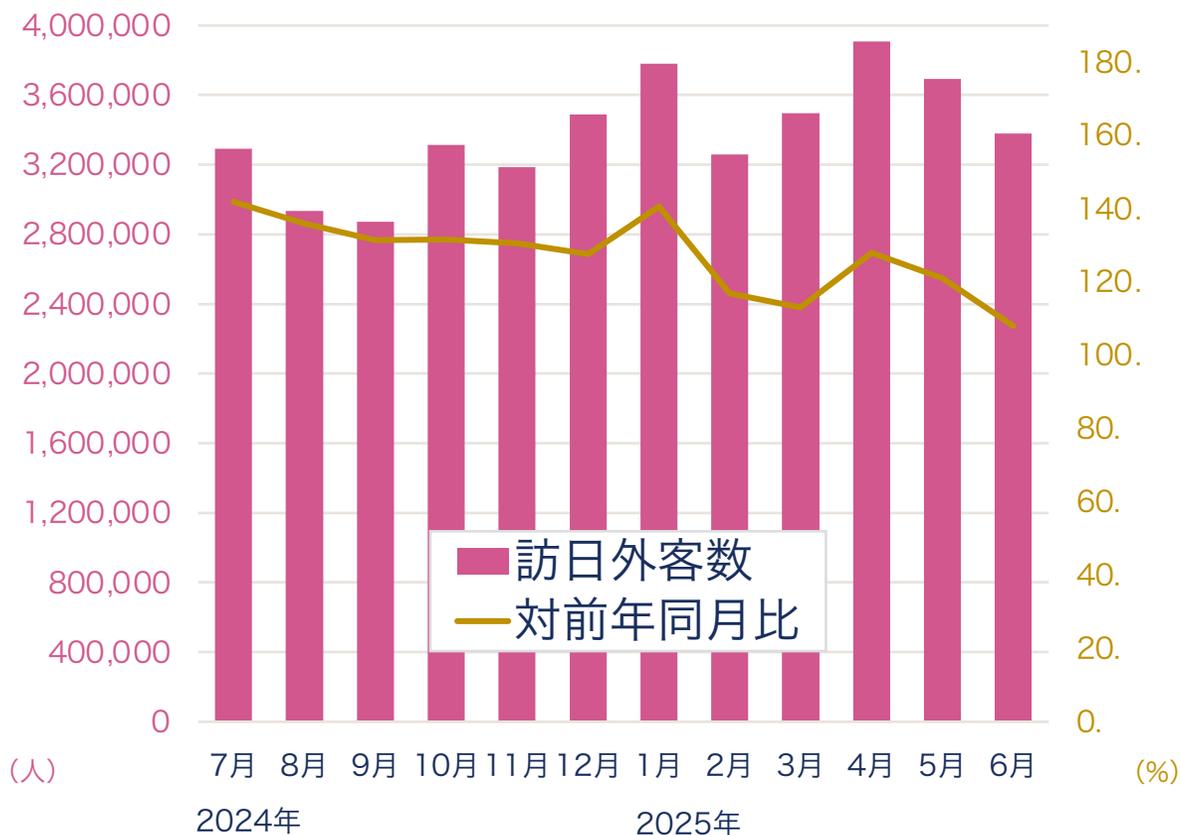


2025年8月 インバウンドマーケット資料



過去最速で累計 2,000 万人を突破！



- 6月単月：3,377,800人（前年比 +7.6%）
→ 6月として過去最高を記録
- 2025年上半期（1～6月）：21,518,100人
→ 前年同期比 +370万人以上
→ 過去最速で累計2,000万人を突破（上半期で達成）

	25年6月 主要国訪日数 (人)	24年 6月比 (%)	19年 6月比 (%)
総数	3,377,800	108	117
韓国	729,800	104	119
中国	797,900	120	91
台湾	585,000	102	127
香港	166,800	67	80
タイ	52,100	95	83
シンガポール	68,600	116	145
インド	28,600	144	186
豪州	59,400	96	159
米国	345,100	116	197
メキシコ	13,200	123	233
英国	33,500	116	130

6月も好調継続！

● 数値押し上げ要因

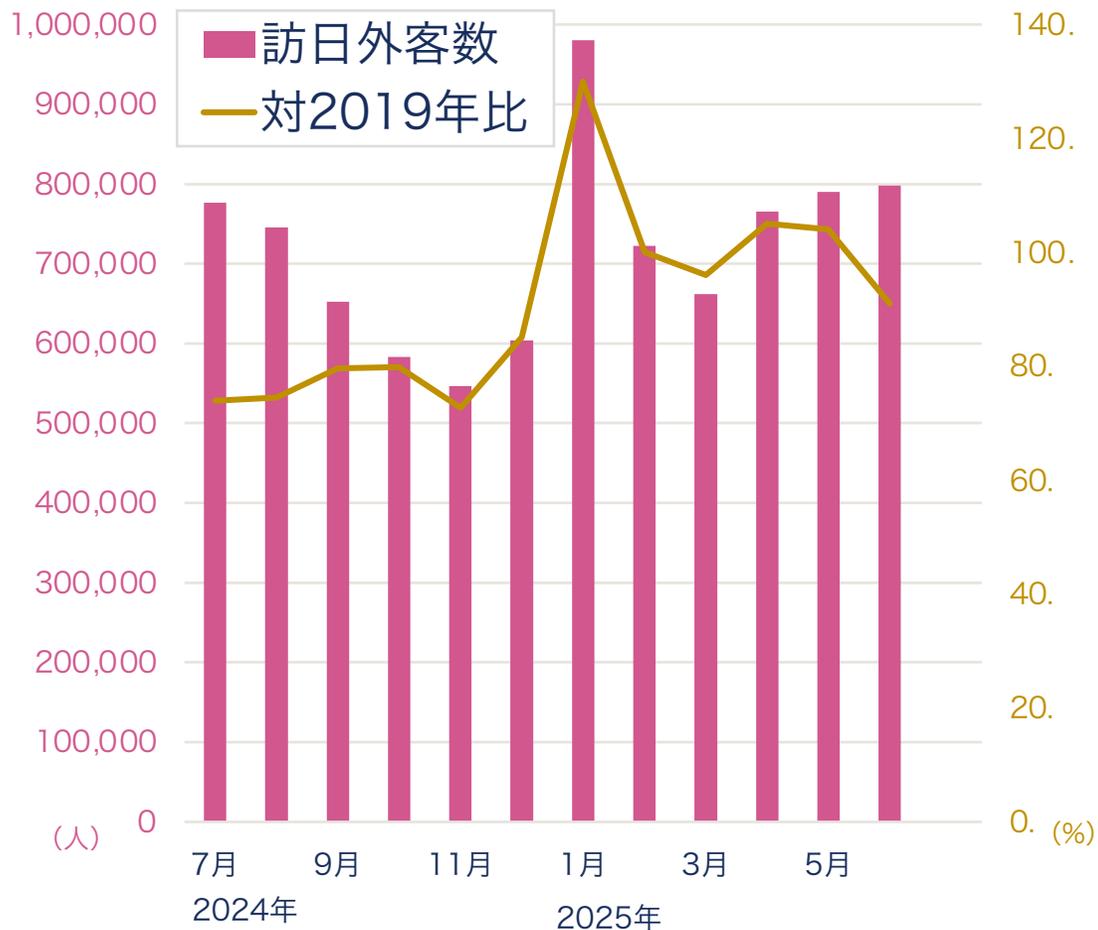
- ・6月は夏休みシーズン前で全体的には落ち着く時期だが、一部市場（中国・韓国・シンガポール・インド・米国・ドイツなど）で、スクールホリデー等により訪日需要が増加

● 過去最高を記録した市場

- ・米国で単月として過去最高を更新
- ・韓国、台湾、シンガポールなど15市場で「6月としての過去最高」を記録

● 累計でも過去最速で記録更新

- ・6月の訪日外客数は 3,377,800人（前年比 +7.6%）で過去最高
- ・2025年上半期（1～6月）で 2,000万人突破（累計21,518,100人）
→ 2024年同期を370万人以上上回る



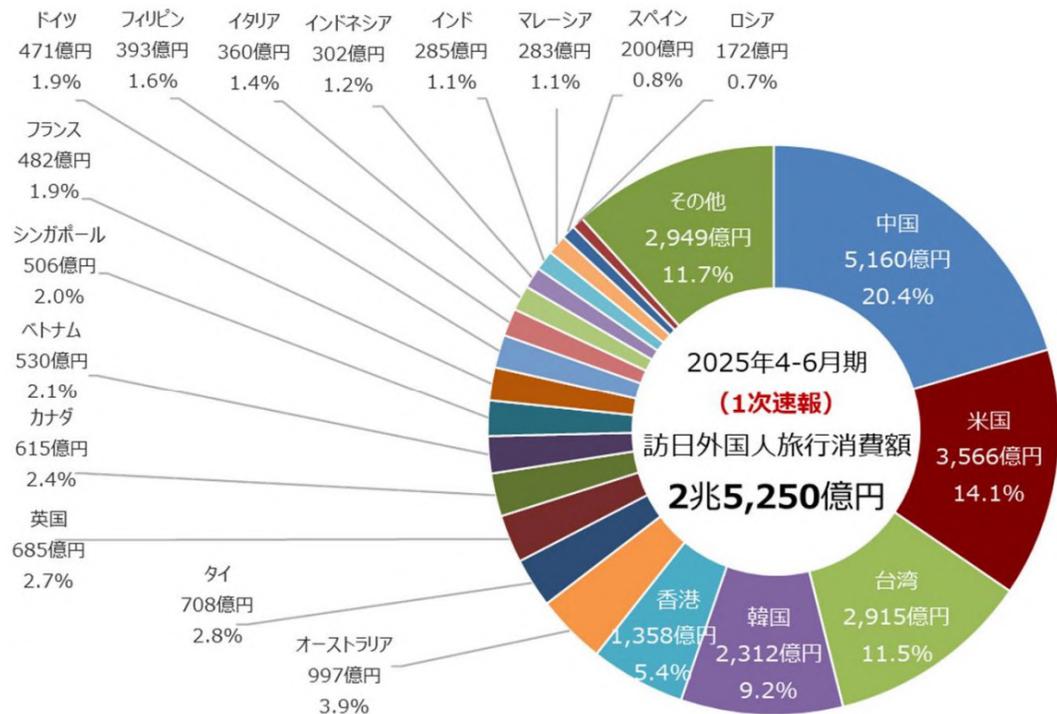
訪日中国人数は約80万人超 前年同月比120%! 今後さらに伸びしろも

- 訪日外客数：
797,900人（前年同月比119%、対19年比91%）
- 増加要因：
 - ・臨沂～関西間の新規就航
 - ・長沙～関西間、杭州～那覇間の復便
 - ・合肥～関西間の増便
 - ・スクールホリデーによる訪日需要
 - ・端午節が5月下旬に集中 → 6月にも波及効果あり
- 今後の見通し：
2019年比では91%の回復にとどまっており、航空便拡充等次第でさらなる伸びしろあり

※コロナ前の通常時との比較を明確にするため、すべて2019年の数値と比較しています
※2025年7月16日発表 日本政府観光局（JNTO）訪日外客数（2025年6月推計値）をもとに作成

訪日消費、2.5兆円を突破 米国が2位に浮上し、北米からの高付加価値消費が拡大

中国・台湾・韓国など東アジアに加え、米国・カナダなど北米圏のシェアが拡大傾向に
宿泊・飲食における高単価旅行者の動きが顕著に

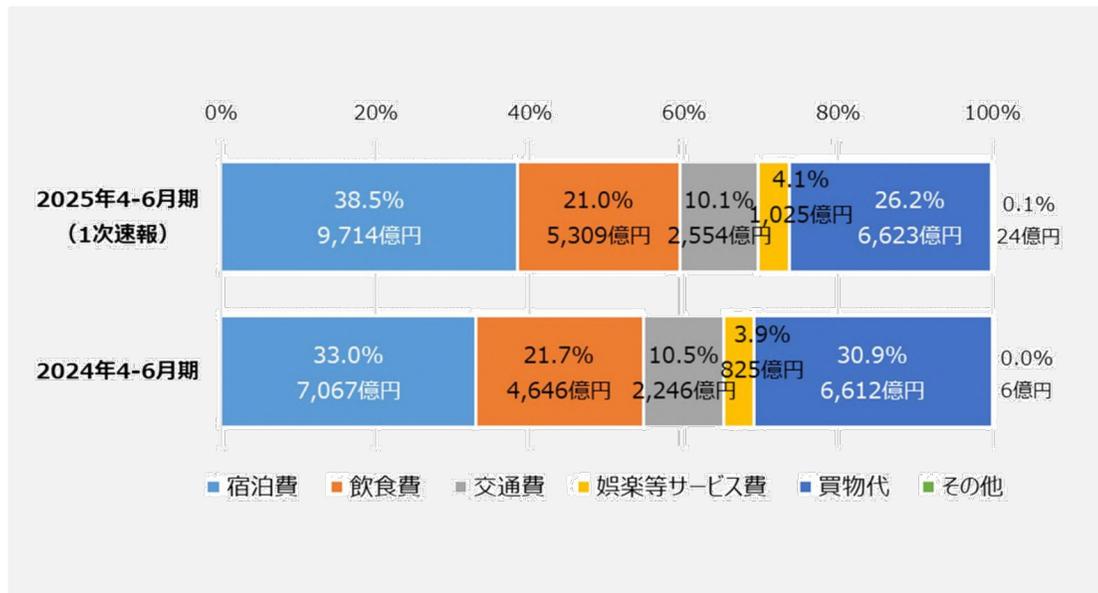


- 訪日旅行消費額：前年比+18.0% → 2兆5,250億円に
- 米国（14.1%）が中国（20.4%）に次ぐ2位へ浮上
- 長期滞在・高単価の旅行スタイルが北米中心に増加中
- 台湾・韓国・香港などアジア圏も引き続き安定シェア

※観光庁「訪日外国人消費動向調査（2025年4-6月期 一次速報）」

宿泊・飲食費が大幅増 「買い物依存」からの脱却が進み、滞在・体験重視へシフト

宿泊・飲食など“コト消費”への支出が拡大し、旅行スタイルに変化
モノ消費中心だった傾向から、滞在価値や体験の質を重視する層が増加



- 宿泊費
前年比 約1.4倍増（単価×滞在日数の増加が影響）
- 飲食費
前年比 約1.2倍増で堅調に拡大
- 買い物代
金額は横ばい → 相対的な構成比は縮小
- “買う”より“泊まる・食べる・楽しむ”への志向が強まる傾向
- コト消費（体験・滞在重視）が旅行スタイルの主流に

2025年5月・6月の延べ宿泊者数

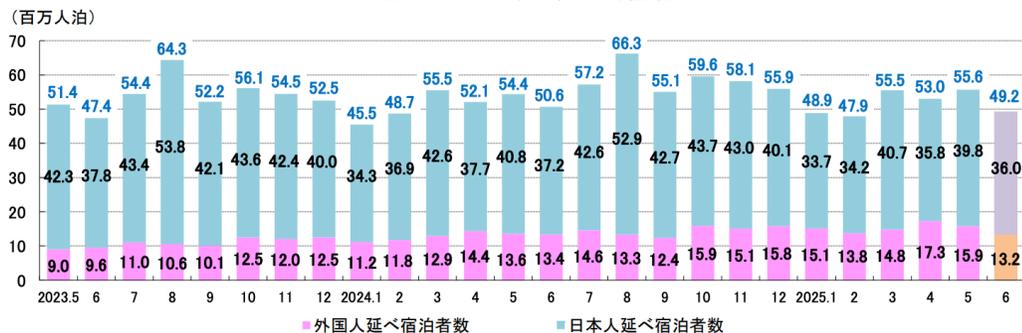
2025年5月は外国人宿泊が前年同月比+16.7%と好調。

(万人泊)

	全体	日本人	外国人
2025.5	5,564	3,978	1,586
(前年同月比)	+2.3%	-2.4%	+16.7%
2025.6 (※)	4,921	3,597	1,324
(前年同月比)	-2.8%	-3.4%	-1.3%

※2025年6月の数値は第1次速報値であり、2025年8月29日公表予定の第2次速報値で変更となる可能性がある。

—延べ宿泊者数の推移—



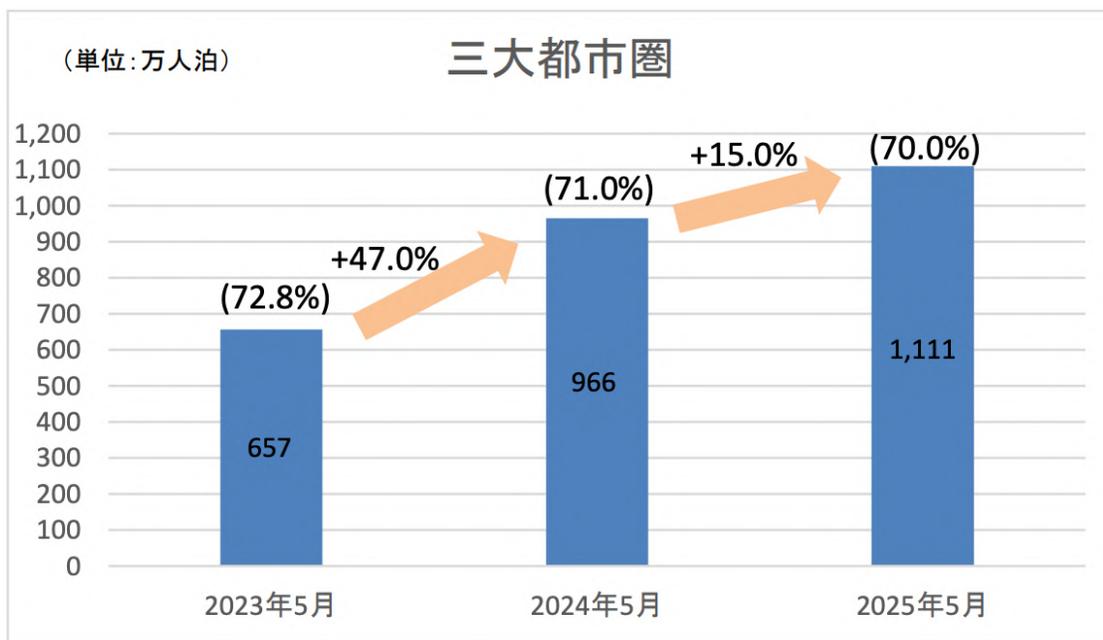
※上表の青字の数値は、日本人及び外国人の延べ宿泊者数を合計した全体の数値である。

● 5月外国人宿泊が+16.7%と大幅増加
訪日需要の高まりが全体数をけん引。
インバウンド回復傾向が継続。

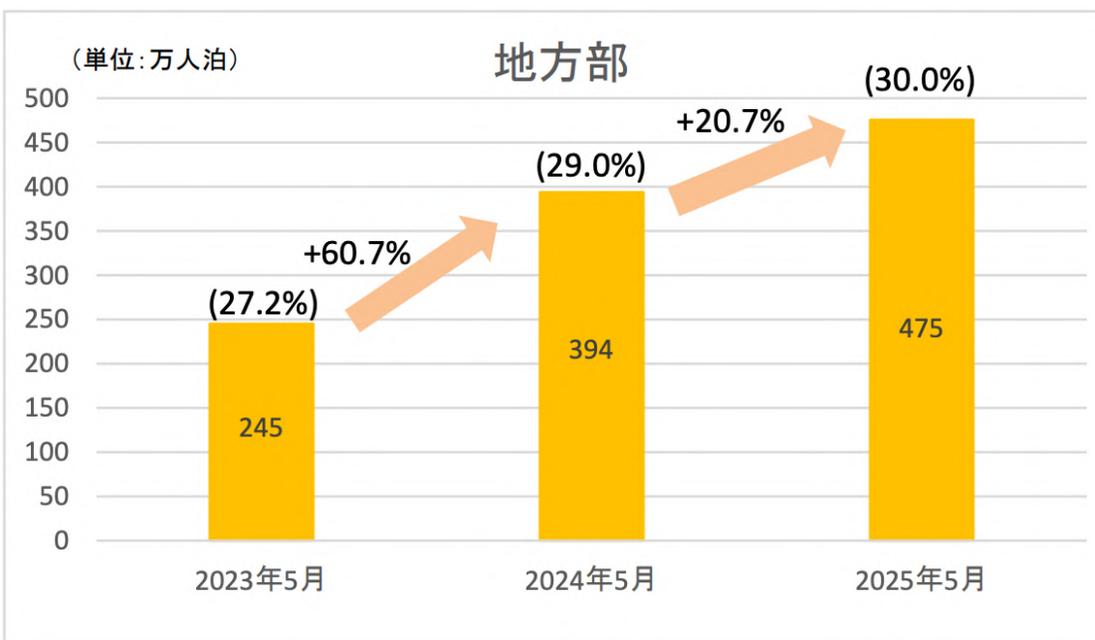
● 6月-1.3%と微減に転じる
伸びが落ち着き始めており、
月ごとの需要波に注意が必要。

継続的な集客のためには、
タイミング別の露出・プロモーション設計がカギ。

外国人宿泊者数は大都市圏を中心に増加を続けつつ、地方部でもシェア・人数ともに着実に成長中。



● 三大都市圏がけん引する構図は継続
東京・大阪・名古屋などの都市圏で23年～25年にかけて+69%の成長。
外国人宿泊需要の7割を引き続き占めている。



● 地方部の成長率は都市圏を上回る
地方部では2023年からの2年間で+93.9%と大幅増加。
旅行先が多様化し、観光資源のある地域への訪問が増加傾向。
宿泊シェアは27.2%→30.0%に。構成比でも存在感を高めつつある。



Japan ticket